

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年10月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0873300859
法人名	日鉱建運有限会社
事業所名	グループホーム サングリーンピア大宮
所在地	茨城県常陸大宮市若林952-1 (電話) 0295-53-6135

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年9月29日	評価確定日	平成21年1月19日

## 【情報提供票より】(平成20年8月18日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 2 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6.6 人

## (2)建物概要

建物構造	RC 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	(有) 150,000 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(8月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	志村大宮病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな山林に囲まれ、利用者は菜園作りに励んだり、栗拾いや山菜採りなどそれぞれのペースを保ちながら生活を送っている。1ユニットで少人数な事もあり、ケアサービスについては、管理者を中心に丁寧なアセスメントがされ、介護計画が適切に実施されているか確認することで利用者の状態把握が十分に行われている。人生経験豊富な職員が多い事で利用者に安心を与え家庭的な落ち着いたケアが行われている。評価で明らかになった課題解決に向け積極的に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘された課題に対して、少しずつだが取り組んでいるが、解決すべき問題はまだまだ残っているのが実情である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について話し合いはするものの、外部評価の意義の理解について職員の意識は低い。今後の取り組みに期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域住民や市担当職員などをメンバーにした運営推進会議を2ヶ月に1度開催している。会議のメンバーに家族や利用者にも加わっていただけるよう呼びかけて行くことに期待したい。又、市からの配布資料などがあり行政の方が訪れたり管理者が担当窓口に出向いたりグループホーム連絡会に参加する等、積極的に情報交換している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月の生活状況や現状報告を家族に行っている。又、苦情箱や無記名アンケート実施などに取り組むが稼働率は低い。家族会を設け、意見や不満、苦情をサービスに反映できるように期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣小学校の運動会への参加や、除草作業に参加するなどして地域に解け込もうとしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時の職員が意見を集め考案し、BS法を用いて全員で取り組む理念を作った。理念は具体的なものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を振り返り、その都度理念にあったケアをしているか職員間で話し合い個別面談実施の際確認を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣小学校の運動会等に参加したり、除草作業に参加するなどして地域に解け込もうと努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングで自己評価について話し合い、職員全体で取り組んでいる。		自己評価について話し合いはするものの外部評価の意義の理解についての職員の意識は低い。今後の取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民や市担当職員などをメンバーとした運営推進会議を2ヶ月に一度開催している。		会議のメンバーに家族や利用者に加わっていただけるよう呼びかけていくことに期待したい。

茨城県 グループホームサングリーンピア大宮

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの配付資料等もあり行政の方が訪れたり、管理者が担当窓口に出向く等、積極的に情報交換を行っている。		グループホーム連絡会に参加している。今後も市役所等への積極的な働きかけの継続を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月生活状況や現状報告を家族に郵送している。また3月、9月に明細を送る際一筆箋を添えるなど工夫している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置したり無記名でのアンケート等に取り組むものの稼働率は低い。家族からの意見や苦情があったときは職員で話し合いを持っている。		家族会を設け家族等の意見や不満、苦情をサービスに反映できるよう期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はない。退職の際には引き継ぎ期間を充分に取り、スムーズに移行できるよう配慮している。家族への報告も実施している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等、職員が参加できるよう配慮している。報告書を作成し、全体会議で職員に報告、話し合いの場を持っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度開催される市のグループホーム連絡会に参加し、交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所(有料)を1ヶ月実施することで利用者や家族が十分に検討できる配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である利用者から生活の技や知恵の教を請う姿勢がある。利用者全員が女性であるため特に料理等に力を発揮して貰っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に面接したり家族からの希望や意見を聴き、出来る限り取り入れるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族からの聞き取りをもとに作成している。日々の記録・目標・具体案に沿って見守りを行い記録としている。この記録を持ってケアカンファレンスを行っている。	○	日々の記録を工夫して作成しており、チャートした部分になっているが事故内容等が示されていない為、日々の記録として残しておく事が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は作成しているものの、3ヶ月に一度の見直しが出来ていない。毎月のケア確認表の改正に留まっている。時間がないというのが現状である。		期間に応じた見直しが出来よう、作成時間の確保を期待したい。また、実情に即した、あるいは変化の兆しに予防的に対応していくための介護計画の見直し等にも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	最長1ヶ月の体験入所を実施している。ショートステイも行っているが、相談を受けることはあるものの実績はない。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に継続的に受診できるように支援している。諸事情によりそれが困難な場合は提携している医療機関への受診を勧めている。また、職員同行の受診にも対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの事例はないが出来る限り対応したいと考えている。しかし現実的には医療行為が必要となるまでの対応となりうる。	○	今後起こりうる問題として終末期に対する対応指針を定め重度化に伴う意志確認書等作成し、書面で家族に対応・確認することが望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の漏洩は行われぬよう文書化している。鍵付きの書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを守るように支援している為、利用者が希望選択出来るよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、利用者の好みや苦手なものを踏まえてメニュー作りを工夫している。利用者も可能な限り準備や片付けに参加されている。		一緒に食事はしているが、検食以外、職員は各自持参した弁当を食べている。グループホームならではの生活の場面としての食事の意義について検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間については業務都合等によりほぼ決まってはいるが、出来るだけ本人の希望に添えるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な分野で力が発揮できるようお願いできそうな事は利用者の役割として行ってもらっている。そば打ちやこんにゃく作り等利用者に教えてもらいながら一緒に作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日用品の買い物やドライブ等、日常的に外出できるよう支援を行っている。車いすの利用者も積極的に外出参加が出来るよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に夜間以外は施錠していないが、幹線道路に面しており、安全面を配慮して職員・利用者の状況に応じては施錠することもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回の評価で指摘を受けた備蓄品は確保できた。定期的な避難訓練や夜間避難想定なども行っている。	○	広域避難場所等の確認を職員全員で取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日記録し、利用者の状態把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や会話のトーン、場所に応じた明るさなど配慮はしているが、表示物等検討すべき点も多い。		利用者の状況に合わせ、それぞれわかりやすく、利用者の失見当識を補うような配慮が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には利用者の好みもの、馴染みのものなどが持ち込まれており、居心地の良さに配慮されている。		